

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 4 号)

1 平成元年9月20日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1 番 脇田 安保	2 番 永井 龍平
3 番 田沢 勝信	4 番 庄司二三男
5 番 岩村 勝弘	6 番 山崎 雅己
7 番 生稲 隆	8 番 鈴木 勝美
9 番 山口 康雄	10 番 鈴木 忠夫
11 番 神田 守隆	12 番 榎本 春光
13 番 山中金治郎	14 番 小宮 利夫
15 番 横溝 功	16 番 石井 昌治
17 番 石井 謀	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 福原 勤
21 番 辻田 実	22 番 黒川 平治
23 番 流山源次郎	25 番 渡辺 昭夫
26 番 近藤 好雄	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 1名

27 番 林 豊

1 出席説明員

市 長 半澤 良一	助 役 小倉 澄男
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総 務 部 長 渡辺 秀夫	民 生 部 長 小幡 清之
経 済 部 長 安西 良一	水 道 課 長 鈴木 信一
教 育 委 員 会 長 杉村 芳枝	教 育 委 員 会 長 福原 修

1 出席事務局職員

事 務 局 長 川上 義雄	事 務 局 長 補 佐 兵藤 恭一
書 記 鈴木 哲	書 記 鈴木 修一
書 記 加藤 浩一	

1 議事日程（第4号）

平成元年9月20日午前10時開議

- | | | |
|------|-------|------------------------------------|
| 日程第1 | 認定第1号 | 昭和63年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第2号 | 昭和63年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第3号 | 昭和63年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第4号 | 昭和63年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第5号 | 昭和63年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第6号 | 昭和63年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について |
| | 認定第7号 | 昭和63年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について |

開 議 午前10時03分

◎副議長（石井 謀君） 本日の出席議員数25名、これより第3回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎副議長（石井 謀君） 日程第1、認定第1号乃至認定第7号昭和63年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎副議長（石井 謀君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

なお、発言の際はページをお示しくさるようお願いいたします。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

(21番議員辻田 実君登壇)

◎21番(辻田 実君) 63年度決算について御質問を申し上げます。

毎年同じことを質問いたしますが、63年度は非常に好景気で、国の決算も予想以上に伸びているということが言われております。しかし、館山市の決算は依然として横ばい状態にございます。特に、歳出の伸びにつきましては抑制され、繰越金の増加が目立っておりますことは、予算執行に対して非常に積極性がなかったと言えるのではないかというふうに思われるわけでございまして、この点については残念に思うところでございます。

経済の各分野の活性化を目指すということが、今館山市に課せられているところの大きな課題であろうというふうに思われるわけでございます。そうした観点に立ちますれば、予算を重点的に投下しながら民間需要を高め、景気の向上をさせ、予算の伸びにつながるような施策をとらなければならないというふうに思うわけでございます。この点については経済学の理論をまたずして当然なことであるわけでございまするけれども、この点につきましては私は毎年同じように質問しておりますので、不満を残しながらも、余り毎年繰り返すとしつこくなりますので、本年は見送りをいたしまして、個々の問題について質問をいたしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最初に、17ページ、第1項市民税でございます。ことしの市民税は、固定資産税を初め他の税収に比較いたしますと個人市民税の伸びが余りよくございません。特に、税金の減税が実施されたといいながらも低いことは、他の地場産業の不振、勤労者の減少等の要因もあるかと思われまするけれども、この点については具体的にどういうことなのか、御説明をいただきたいと思っております。

次に、歳出に移ります。47ページ、第1項2目13節、行政事務委託料 1,292万円についてお尋ねをいたします。大相撲の開催で町内会長さんには大変な御協力をいただいているところでございます。おかげで切符の販売も順調に進んでいるわけでございます。しかし、多くの町内会長さんの話の中に共

通して出てまいりますのが、行政事務費の委託料が非常に低いので、もう少し増額してもらうように骨を折ってもらえないかという要望でございます。

そこで私は質問をいたしたいと思います。委託料の積算基礎につきましては人口割、世帯割ということが述べられております。このほかにこの委託料の積算には仕事量、そして仕事の内容、質によって加算されるということはないのかどうなのか。端的に申しますれば、業務量が少なくても多くても人口割、世帯割でもってもう同じだと、こういうことで推移しており、そしてこの仕事の量とか仕事の質、内容によってこの弾力性がないんじゃないかと、そういう点が非常にそういった声にあらわれるんじゃないかと思うわけでございますけども、そこら辺の交付基準、委託基準なりについて詳しくひとつ御説明をいただきたいと思います。

次に、50ページ、第1項6目19節のJR内房線複線化促進期成同盟の負担金4万円と南房総地域半島振興協議会負担金10万円について御質問を申し上げます。この2つの負担金の交付内容は非常に重要であろうというふうに思います。

一昨日の質問の中におきましても、JRの現況を見たときに早急に改善しなきゃならない点があるわけございまして、きょうも朝のうち列車がとまりまして、今私出てくるときに駅に寄りましたところが、かなり混乱しております、11時ごろの汽車になるとどうやら上りだけは定時の時間に復旧するんじゃないかと、こういうことが言われております。私は実を言うと、きょう県のスポーツ少年団の役員会が千葉市であるわけございするけれども、議会がありますから出席をいたさないことにしておりますけれども、館山から行く人は何人かはもう定時には間に合わない。ゆうべ6時か7時ごろですと非常に天気がよくてとても台風が来るような状況じゃないと思って、9時ごろになってもこれは大丈夫だと思ったら、けさ方えらい勢いをもって台風が参りました。朝7時過ぎになりますとさわやかな天気になりまして、しかしながら列車はとまっておると、こういう状態。このことは、やはり私前にも言いましたように、館山市のスポーツ少年団だけでなくほかにそういう団体の会議等についても、列車が出られないということでもっ

て、あの状況では前に行って泊まって待機するという状況はとてもあり得ないということでもって、もうただ電話でもって失礼しますというだけでもって、非常に信用と職責の面においてマイナスになっているわけでございます。

これはもう台風ということではなくて、ちょっと雨が降るとこういう状況というのは非常にありますし、私も千葉へ行っていて、会議ありまして、少し雨が強くなってくると、辻田君きょう帰りは大丈夫かと、車かバスかいというようなことでもって同僚の委員に言われまして、もうちょっと雨が強く降りますと帰ってくることすらできないと、何度か私はストップ食いまして千葉に泊まったこともあるわけでございますけど、そういう面では経済的にもいろんな面でもって私不利益こうむっているわけございまして、このＪＲの健全化というんですか、もうどんな状況の中でも不通にならないというものを促進していかなきゃならないというのは、館山市にとりまして非常に大きな願望であるというふうに思うわけでございます。

そうした意味におきましては、この４万円の委託金というのは随分少ないようじゃないか、毎年同じようなものでもって効果が上がらないような気がしておりますけれども、そこら辺についてはこの期成同盟というのはどういう活動をしているのか、それでそういう問題に対応して積極的に取り組まれているのかどうかということについて伺いたい。

それから、地域半島振興法でございますけども、これも大変な勢いでもってスタートしたわけでございますけれども、どうもその内容がいま一歩進んでないような気がします。これ時限立法でございますから、あと５年ぐらいしかございません。具体的な事業というものは目に見えておりません。それ以後通常の半島振興の県の施策の中でもって行うということかわかりませんけれども、それではどうも法律の立法精神、そして半島振興法によって館山市民が非常に踊らされたということに終わってしまって、何かふがいがないような気がするわけでございますけれども、この半島振興法は法律としては非常にいいものであるわけでございますから、これを最大限に活用して館山の半島性に基づくところの過疎化、または公共施設の充実に努めなきゃならないと思うわけでございますけど、そういう意味におきましてはこの協

議会の活動状況、そういうようなものはどうなのか、この点について教えていただきたいというふうに思います。

それから、55ページ、第1項12目19節、暴力団対策補助金についてでございますけれども、館山市も暴力追放の都市宣言をしたわけでございます。ことし2年目を迎えるわけでございますけれども、この暴力都市宣言をしても、予算的には非常に少ない予算でもって、これでもって具体的にはどういう活動をするんだということが防犯協力会の役員の人等からも何度か言われておるわけでございますけれども、この都市宣言に基づいたやはり暴力追放の活動は、市としてどういう面で新しい分野開拓され、そして成果を上げておるのか、その点についてお伺いしたいと思います。

なお、この30万のほかにも私は暴力追放宣言都市としてふさわしい活動、そういうものに対するところの間接的な予算の執行というものがあろうかというふうに思うわけでございまして、その辺はどういうものがあるのか、あわせて説明をしていただきたいというふうに思います。

それから、87ページの1項4目13節、育成牧場委託料でございます。この豊房の育成牧場におきますところのホルスタインの乳牛の育成につきましては、非常に好評であるし、また館山地区におきますところの乳牛の質の維持、向上に貢献しているということを伺っておりまして、非常に結構だろうというふうに思うわけでございます。

そこで、2点について御質問いたします。1つは、ここにも書いてございますように、2,500万円の支出がされておるわけでございます。委託がされておるわけでございます。これに対しまして収入があるわけでございますけれども、収入の方と差し引きしますと約600万円の赤字になっておるわけでございます。したがって、この点につきましては、この600万の赤字はどのように考えておるのかお伺いしたいと思うわけでございます。ただ収支的に600万円の赤字が出て、料金の値上げもできないのでということなのか、それとも経費が余りにもかかり過ぎて600万オーバーになったのでこのように委託する関係600万出していると、こういうことなのか、この600万の差額の性格はどういうものなのか御説明をいただきたい。

それから2番目には、この委託先の畜協の方におきましても、館山市の委託料が十分ではなくて、いろいろ合理化その他を図っていかなければならないと、最終的には飼料とかそういう面について儉約するというような状況にも追い込まれかねないということがあるので、これはもう少し上げてもらわなきゃ困るんじゃないかというようなことを私は耳にしているわけでございまして、こうした点についてはこの委託方法、そういうものについてはどういう形になっておるのか、そしてそういったせっかくの安房の乳業生産地としての面目を保ち、そして向上させていくという面についてはこれは必要なものだというふうに思うわけでございますので、そこら辺の話し合いの経過なり状況について教えていただきたいというふうに思います。

それから、93ページに移ります。第1項2目19節、大型店対策費でございしますけれども、ここに大型店の対策事業補助金7万6,000円、それから大型店進出対策資金の利子補給69万1,000円と、こういうものが出ているわけでございしますけれども、通告質問の中におきまして大型店におきますところの地元商工業者の問題を取り上げたわけでございしますけれども、そうした問題はこれらの補助金である程度解消できておるのかどうなのか、そして特にこの利子補給はどういうものに対してどのような成果を上げておるのか説明をしていただきたいというふうに思います。

それから、93ページの商工費、13節委託料の企業立地基本計画調査委託料500万円と、それから95ページの冒頭の委託料の中の一審備考の最後の海洋性リゾートタウン事業委託料600万円の内容についてお伺いしたいと思います。この委託に基づきまして報告書というものが添付されたわけでございしますけれども、あの報告書の中にはかなり実施していかなければならないようなもの、方向性というものが出ているわけでございしますけれども、私が見て感心する部分も非常に多くあったわけでございしますけれども、そうしたものは実際に市政に反映されておるのか、また今後それはどのように反映させていくのか。今までの調査は、どっちかという調査し、学者の人を中心にいたしまして非常にいい報告書が出るわけでございますけど、それが報告書だけで終わってしまってもう何ら解決されてきてないと。特に、駅前の

再開発だとか駅の庁舎の改築だとか、いろいろ工業政策だとかいろんな面で水道の調査とか、そういうものを行われておるけれども、なかなか答申が出てその具体化というのが10年とか15年実現されてないのが非常に多いわけでございます、これだけの本格的なあの報告書の結果が具体的にどの程度実現されて、そしてどのように今後実現性を持ったものが生まれてくるのか、その点について説明をしていただきたいというふうに思います。

それから、99ページでございますけど、2項4目13節、地質調査委託料でございます。これは説明によりますと相生橋周辺の地質調査ということで、過日永井議員が非常に熱心に御質問されまして、その成果が出たものだろうというふうに思うわけでございますけれども、この地質調査の結果相生橋周辺がどのように変わるのか、そして実際に調査の結果がどうなるのか、橋をかけかえる必要があるのかないのか、そういうものを含んでその内容について御説明をいただきたいというふうに思います。

それから、100ページに移りまして、4項1目13節でございますけれども、館山湾の海浜現況調査及び解析事業の委託料でございます。これは非常に期待しているところでございまして、議会からも再三館山湾の汚染問題について何とかしなきゃならないということで、本格的な調査に入ったということでございますけれども、これが単年度ではなくて、当初予算に1,500万の補正予算を組んで、そしてことはまた1,500万円の同じ委託料出ているわけですけども、この調査は何年ぐらいかかるのかということをご伺いしたいわけでございます。そして、どのような調査結果というんですか、中間的なものが出ておるのか、その点について内容を説明していただきたいというふうに思います。

それから、101ページに移りまして、5項1目13節でございます。この中に物件調査委託料1,300万、さらには館山駅西口景観設計290万、それからJR橋上駅舎等委託設計料869万というのが計上されておるわけでございます。これはどういう目的とどういう内容で委託されておるのかお伺いをしたいわけでございます。

特に、このJR館山の駅舎の委託料——869万と非常に大きい額でござい

ますけれども、昨年の議会の中でもって駅舎はどうするんだと、橋上駅はどうするんだと、その入り口はどうなるんだという質問が何人かの議員からされたわけでございまして、そのときの答弁と共通理解の中においては、西口、東口の再開発がある程度目安がついた時点でもって決まっていくので、今ここだとか云々ということは決定しておりませんと。それと並行して決定していくんだということでもって、その具体的な内容が示されないままに、若干不満を残しながらも、やはりそういう大きい計画の中で進められるものはそう性急に結論が出せないものかなというふうに思っておったわけでございしますけれども、ここになりますと約 1,000万円近くの橋上駅の調査委託というのが出ておるということは、何かそうした経過から見ていきますと、何か議会の論議を頭越しにもう駅舎の設計まで進んでいっちゃうということについては、何かちょっと行き過ぎじゃないかというふうな感もするわけでございしますけれども、ここら辺の状況と加味して、もう少しこういうものを、これだけ本格的にやるんだったら、議会の中であれだけ論議されておったわけですから、もう少し合意ができる論議を踏まえた上でもってこういう大がかりな委託というのは出していくべきじゃないかというふうに思うんですけれども、こういう委託が両方先出されてしまったということでございまして、その点も含んで御答弁をいただきたいというふうに思うわけでございします。

それから、104ページに移ります。104ページの5項4目13節、公園維持管理費でございします。これにつきましては449万というのが計上されておりますけれども、公園につきましては公園の職員もいるわけでございまして、かなりのものを管理しているように伺っているわけでございしますけれども、ここでもってかなり大がかりな委託をしているわけでございしますけれども、この委託による効果とメリットというものはどういうものがあるのか説明をしていただきたいというふうに思います。

それから、同じ104ページの少し上に上がりますけれども、3目15節、下水路工事についてでございします。下水路工事につきまして7,442万円の工事を受けられたわけでございしますけれども、この点についてはどの程度の進捗をしたのか、そして不用額85万というものが出ているわけでございします。

れども、私が再三議会の中でもって質問しておりますけれども、館山小学校裏の見留川の上流におきますところの排水路が3年越しになっておると、そして予算も計上されておるといことなただけけれども、予算が繰り越しされているというふうなことでもって、地元の人たちは集まるたびにどうしてあそこの川の汚泥を撤去してもらえないんだと、するするって予算も組んだっていうけども何もやんないじゃないかということでもって、どうも私の責任が問われるような、何か信用性にもかかってくるようなことが続いておりまして、予算が組まれておるんなら組まれて実施してもらわなきゃ困るし、それが安易に繰り越されるということについては非常に困るわけでございます、そこら辺とあわせてこの工事請負費についてひとつ御説明をいただきたいというふうに思います。

それから、114ページの2項3目15節、北条小学校の改修工事についてでございますけども、6,170万という大がかりな請け負いがされたわけでございます。北条小学校につきましては、私は建設当時からあの設計施工については問題があるということでもって、当時の文教委員会といたしましても愛知県の春日井中学というのを視察しまして、そして同じ設計だということでもってでき上がりを見たんですけども、その中においても向こうのPTAの人たちが、これはカリフォルニアかなんかでもってつくったモデル的な校舎でもって、向こうではすばらしくて国際的な賞をとった建物かわかんないけども、日本のように湿度の高いところについては、そして暑いところでは非常に不便でもって、こんな校舎はまねしてつくんない方がいいですよということを言われまして、私と同じようなことが当時石井正議員からこの席から質問されまして、そういう点については十分検討してやりますという当時の教育長の答弁、そうした中でもっていろいろなかけ合いが何度かあったんだけれども、とにかく景観もいいし、世界的な有名なデザイナーがやって、その特許を持ったものだからということだったんですけども、当時からもうかなり欠陥校舎になるんじゃないか、日本で建った場合には欠陥校舎になるんじゃないかということでもってやってきたんですけれども、その後いろいろと寒さがひどいとか、いろんな暑さがひどいとか、いろんな壊れたときの改修が

高くてたまらないということが出てきまして、いやいやなかなかやはりお荷物になったもんだと、これだったら当時議会としてもかなりの姿勢でもってやはりチェックしていったらよかったんじゃないかと、今になって過ぎちゃったものしょうがないということできまして、私は長い議員生活の中でもってこのことについては非常にそういう面でもって矛盾を感じているもので、北条小学校については関心を持っているわけでございます。

そういうわけでもって、北条小学校行きたんびに中を見るんですけれども、かなり傷みはひどくなってきておりまして、最近の校長の中におきまして、辻田さん、これはもう改修するよりも建てかえちゃった方が早いんじゃないですかと、もうおんぼろを継ぎ足し継ぎ足しで金ばかりかかっていって、余り世話かかんなくて昔はいいということをやったんでしょうけれども、建てた順からいくと新しいんだけれども傷みはひどいと、こういうことも耳にしているわけございまして、私もその意見には同感でございまして、もう今までやってきて、小学校建てた経過からいって、余りよくなかったことはよくなかったものとして、建てかえる必要があればむしろ一気に建てかえて、そしてきちんとした校舎をつくっていった方が — 何か継ぎはぎ継ぎはぎでもって金ばかりかかっていって、経済的に考えていっても新築の方が安上がりになるんじゃないかと思われるような節もあるわけでございますけれども、そういう点を加味いたしまして、この工事請負がどのような内容でどのような成果というんですか、状況におさまって今後どういう見通しなのかお伺いしたい。

それから2番目に、今言いましたとおり、北条小学校は余りそういったメソツにこだわらず、やはり一気にだめならだめでもってもう新築という方向に踏み切らなきゃならないという見方があるわけでございますけれども、この見方に対するところの所見をお伺いしたいというふうに思います。

127ページに移ります。6項1目13、19節でございますけれども、最初是小中学校の体育振興委託料 577万円、それからもう一つは館山市体育協会補助金 487万 5,000円が支出されているわけでございます。この点につきましては、昨年からことしにかけまして大幅な補助金の値上がりがありまして、

その点につきましては非常に歓迎するところでございます。しかしながら、どうもここ最近スポーツの振興というんですか、そういうものが鈍い。かつての館山のスポーツ王国の名をほしいままにしてきたことを経験する私どもにとりましてみると歯がゆくてしょうがないというふうに思って、再三私はスポーツスポーツということでやっておりますけれども、これは私の政治活動の1つのライフワークでございますから、スポーツ抜きじゃ私自身考えられないのもって、これはもう政治生命をかけて取り組んでいく課題でありますので、ひとつお聞きをいたしたいわけでございますので。

第42回の中学校総合体育大会においてのその成績はどうであったのか、そして出場種目はどういう点にわたっておるのか、この点についてまずお伺いいたしたい。

同時に、小中体連の補助金につきましては、小学校のスポーツ振興費、ほとんどスポーツ少年団が肩がわりしてやっているようなのもって、何かそういったスポーツ活動につきましては、小学校は中学と違って補助金が少ないのだということでもって、スポーツ少年団丸抱え的なものを行っているんですけど、それはそれでいいんですけれども、その小学校のスポーツ振興費というのはどのようなものがどの範囲でもって出されているのか、その割合を伺いたいと思います。

それから、体育協会の補助金でございますけれども、この中でもって14回の県民大会には17種目出ているということでもってございますけれども、その成績についてはどうであったのか教えていただきたい。

同時に、一昨年来の質疑の中でもってスポーツの振興のかなめは何といっても指導者の育成だということを言われておりますけれども、この指導者の育成に対しては体育協会の中でもってどのようなことがどのようにやられておるのか。一部私も体協に関係しておりますものですから、この補助金じゃとても——辻田さんが一生懸命に言ってくれるけれども、指導者の育成だとか資質の向上まで金が回らないよということが口ぐせのように言われておまして、金がないからやらないというわけには済まないんじゃないか。

城山公園の設備等についてはかなりの高額なものが出されているわけでご

ざいまして、私はあの程度のことをスポーツの方にかけてもらいたいというのが私の念願でございまして、このかけ合いがいつ同じぐらいになるかわかりませんが、それは力の比べ合いだというふうに思っておりますけれども、城山の方はうん千万円の追加予算も組むし、当初予算もうん千万、スポーツの方は政策面でもって多くの人間があえいでおると、この状況につきましては — 考え方、見方の違いがあるかもわかりませんが、私はそういう面でもってこの振興費についてはどうかということについて、効率を上げてもらいたいために、さらにはスポーツ振興につながるころの大型予算を組んでもらいたいという前提から、この決算がどうであったかということについてお尋ねをする次第でございします。

長くなって申しわけありませんけど、もう一つ、国民健康保険会計について御質問申し上げます。141ページ、保険会計の中におきまして診療報酬のところで御質問をいたしたいと思ひます。

この説明の中でもって、診療報酬につきましての点検が何度か繰り返されたということが説明書の中に書いてございします。非常にいいことだというふうに思っております。同時に、医療費の支払いの確認書というんですか、これが2回にわたって出されたということが述べられておるわけでございします。非常に歓迎するところでございします。

私は国民健康保険につきましては、非常に保険料が高いということでもって、何とか保険税の軽減をしなきゃならないということでもって論議が交わされ、そういう方向でもって前進しないかと、それもよって立つところは診療報酬が高いからどうしてもこの保険料が高くなると、これさえ安くなれば保険料はずっと安くなるということですから、何とか診療報酬が安くなる方法はないかということでもって研究しておったわけでございしますけど、幾つかある中の一つにつきましては、やはり医者の方の診療報酬の水増し、不正、そういうものが非常に多いということが巷間伝えられているわけでございします。今回の決算書の中におきましても、誤認請求による還元金が1,000万ですかあるわけでございします。莫大な額でございします。件数として数百件あるということではございしますから、1件や2件ならいいんですけど、900件、何千

万の金が — 診療請求の誤認、そのままやればそのままもう医者のところへ行っちゃうものは — 丸もうけになっちゃうものが返還されるということがあると、これはかなりやっぱし巷間伝えられているものじゃなくて内容的にあるんでないかと、医者が悪意でやってなくてもあるんじゃないかということでございます。

したがいまして、この点検についてはやはり強化してもらうことがある程度診療報酬の抑制につながるんじゃないかというふうに思うわけでございまして、この実態はどの範囲でもってどういうように行われたのか、その点についてお伺いしたい。

もう一つは、医療費の診療報酬の結果の本人の通知、私のところも社会保険協会からちょっと検診やなんかでかかるとすぐ通知が来ます。幾ら幾ら何月何日支払われましたと、御通知申し上げますと、こういうのが来るわけでございまして、非常に何か気持ちのいいものでございまして、ああこれだけかかったのかなということで、その中で私が感じることは、私はやっぱりあれだけの治療を受けたのでこれだけの報酬がかかったなと、この社会保険の方も案外負担が大変なんだなと、そうやたらに医者にかかっていったんじゃ保険料が上がる原因になるんだなんてことを感じながら — 家族やなんかのちょっとした検診だとか病気のときのものを見て思うわけでございます。そのことが私は非常に保険者がやたらに病院行って報酬を高めるということは抑制されるんじゃないかと思うし、また同時に自分のかかった病気はこれだけの経費がかかって治療してもらったんだというありがたみをやはり味わってもらおうと、もう少しこの健康保険会計に対するところの意識というのは変わってくるんじゃないかというふうに思いまして、私はできることならもうその都度 — 例えば1万円以上のものについてはもう全部出すぐらいのことをしてもいいんじゃないか。

それは経費と労力の問題でそれは可能なのかどうなのかという範囲内において、私は当面そのことをやるのが、今言った2点 — かかった人の意識の問題、そしてその間違いの防止というようなものからいって非常に効果があるんじゃないかというふうに思いますけども、その点についてはどのよう

に考えておるのか、今回こうしたところの数字が出ておりますので、その状況を詳しく説明していただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

◎副議長（石井 謀君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、17ページの市民税についてでございますが、個人市民税の伸び率が低い理由は何かという御質問でございますが、これは昭和62年9月の税法改正により、税率構造が13段階から7段階に緩和簡素化されたこと、基礎控除、配偶者控除、扶養控除がそれぞれ2万円引き上げられたこと及び配偶者特別控除14万円の創設による減税があったため、昭和63年度の個人市民税の調定額が前年度と比較して0.2%の伸びにとどまったものでございます。なお、総所得金額は2.8%伸びております。

次に、47ページ、行政事務委託についての御質問でございますが、算定基礎につきましては、63年度は1町内会当たり均等割4,500円に4月1日現在の区域内の世帯数に660円を乗じて得た額を加えて交付いたしました。世帯割につきましては、人事院勧告の引き上げ率を参考に増額してございます。

また、町内会に依頼しております事務量につきましては、若干ではありますが増加傾向にございます。

なお、町内会長さん方の御苦勞に対しましては、行政事務委託料のほかに館山市町内会連合協議会補助金を支出し、地域振興のため役立てていただいております。

次に、50ページ、JR内房線複線化促進期成同盟の負担金及び南房総地域半島振興協議会負担金についての御質問でございますが、まず第1点目のJR内房線複線化促進期成同盟の事業内容につきましては御質問ですが、本同盟は内房線複線化の早期実現を図り、あわせて輸送力の増強を推進する目的で設立されたものでございます。したがって、昭和63年度の事業内容につきましては、内房線の全線複線化を最終目標とし、当面君津－館山間の複線化計画の樹立並びに利用者の利便性、快適性の向上を図るため、快速電車

運行区間の延長等の輸送改善について東日本旅客鉄道株式会社、国会、政府等に対して陳情し、要望書を提出するなどの活動を主として行ったものでございます。

次に、第2点目の南房総地域半島振興協議会の事業内容につきましては、本協議会は南房総地域にかかわる半島振興計画の促進等を行い、市町村と県の緊密な連絡提携により当地域の総合的振興を図る目的で設立されたものでございます。したがって、昭和63年度の事業内容につきましては、国の予算編成時などに半島振興の推進及び半島地域にかかわる道路整備について政府関係機関等へ要望活動を行うとともに、県外研修や県内研修を実施したものでございます。

次に、55ページ、暴力団対策費補助金についてでございますが、この暴力団対策費補助金30万円につきましては、市民と取り締まりに当たる警察が一体となりまして暴力団絶滅運動を推進するため、館山市防犯協力会に対し昭和62年度から交付しておりますが、昭和63年度につきましては暴力追放宣言都市のステッカー 6,000枚を制作、配布いたしました。このほか、館山警察署管内防犯協力会連合会におきましても暴力追放協力店の店頭表示板の作成、資金源の締め出しを呼びかけるチラシを作成、それぞれ配布し、暴力排除意識の高揚を図ってまいりました。成果といたしましては、警察の指導と強力な取り締まりとあわせ、管内遊技場組合による暴力団に対する絶縁状の手渡し、建設業暴力追放推進協議会館山支部の設立等市民の間に資金源の締め出しなど暴力排除意識が高まってきております。

次に、87ページ、育成牧場委託料についての御質問でございますが、まず牧場経営の独立採算制ができないかという御質問でございますが、育成牧場の設置につきましては、酪農振興の発展と乳牛の体質の向上及び酪農後継牛を育成することが目的でございます。したがって、独立採算制をとることは牧場使用料を月額1万5,000円を2万円程度に引き上げる必要があり、酪農家の負担が重くなりますので、好ましくないと考えております。

次に、委託料2,500万円の内訳についての御質問でございますが、これは頭数割及び人件費割になっており、頭数割につきましては月額1頭1万5,0

00円に預託頭数及び月数を乗じた額、人件費割につきましては当該年度の当初予算の一般職の平均給与費の1.5人分でございます。

次に、牧場受託事業が赤字ということで、管理に手抜きはないかという御質問でございますが、御承知のとおり動物につきましては手抜きをすれば健康状態及び体格等に即影響があらわれるものでございます。現在の預託牛につきましては、受胎率96%、体格についても日本ホルスタイン協会標準値をまさる成績でございます。このようなことから、善良な管理が行われているものと考えております。

次に、市の600万円の赤字分の支出について、農業振興費的なものかということでございますが、御質問のとおり農業振興費的な性質の支出でございます。

次に、93ページ、大型店対策についての御質問でございますが、大型店対策事業補助金につきましては、これは商工会議所の諮問により開催されます商業活動調整協議会にかかわる費用に対する補助でございます。昭和63年度は2回実施されており、その経費の3分の1以内とし、7万6,000円支出いたしております。

次に、大型店進出対策資金利子補給金につきましては、市内中小小売商業者が大型店の進出に対応して経営の合理化を図るため、または新商業施設に入店するために必要な費用の融資を受けた場合に利子補給を行うものであります。昭和62年度は新規申請のありました3店につき31万6,043円利子補給をいたしております。63年度は新規申請がなく、62年度の3店に対してのみ12カ月分の69万1,073円利子補給をいたしたものでございます。

次に、94ページ、企業立地、海洋性リゾート委託料についての御質問でございますが、まず企業立地基本計画につきましては、62年度に実施いたしました産業振興基礎調査の結果を踏まえて、その具体化を図るためリゾート関連産業育成方策及び企業立地推進方策等について調査を実施いたしました。これらの諸施策につきましては、関係機関との協議を進め、地場産品を活用した新製品の開発、新たな企業誘致の検討等地域産業発展のために活用してまいりたいと考えております。

また、海洋性リゾートタウン事業についての御質問でございますが、ウエルネスファミリーリゾートを推進する上で拠点施設となるウエルネスコアの実現化に向けて、館山市来訪者のリゾートイメージ、今後望まれるリゾート施設等を内容とするアンケート調査を実施し、その需要見通し等について調査をいたしました。さらに、館山リゾート研究会を運営し、民間活力導入促進方策等企業によるリゾート事業の可能性、また館山のリゾートイメージアップ方策についても実施いたしました。なお、本調査結果につきましては、ウエルネスリゾートパーク計画及びリゾート法に基づく整備計画等を策定する上で活用してまいりたいと考えております。

次に、99ページ、地質調査委託料についてでございますが、この業務委託は相生橋の改修及びその周辺の道路改良についての検討でございますが、橋梁は新規かけかえが必要で、橋長が17.5メートル、幅員は7.5メートル、形式はコンクリート床版橋の工法が最適でございます。また、取り付け道路につきましても7.5メートルの幅員で改良が必要となります。今後取り付け道路の用地交渉に入り、交渉がまとまりましたら実施設計をし、工事に着手したいと考えております。

次に、100ページ、館山湾海浜調査についてでございますが、まず調査の内容でございますが、海岸は長い歴史の中で変化を来してきたことから、その経時変化を探るための履歴調査及び平成元年度に行う本調査に先立っての予備調査といたしまして定期観測と冬期調査を実施してまいりました。今年度も引き続き履歴調査の補完分と本調査といたしまして流況、漂砂及び地形変化等の調査を実施しているところでございます。調査内容が多岐にわたるため、単年度の調査では現況把握が十分ではなく、制度も期待できないため、2カ年で実施しており、この調査データの解析につきましても今年度中に行い、結論が出る予定でございます。

次に、101ページ、館山駅西口地区景観設計委託料でございますが、これは館山駅西口地区土地地区画整理事業施行地区につきまして、当該事業の施行にあわせ海洋性リゾートタウン館山市の西の玄関口としてふさわしい景観形成を誘導するため、まちづくりの方向、コンセプト、ゾーン別整備方針、整

備のイメージ、整備手法等の検討を行ったものでございます。

次に、ＪＲ館山駅橋上駅舎化等調査設計委託料でございますが、館山駅東口地区及び西口地区の一体性を確保するため、将来の橋上駅舎化を踏まえた上、当面自由通路を主体としまして地質調査、自由通路及び橋上駅舎の必要性、自由通路規模及び橋上駅舎規模の算定、自由通路及び橋上駅舎の位置の選定、自由通路の概略設計、概算工事費等の検討を行ったものでございます。

次に、104ページ、公園維持管理委託料につきましてその内容を申し上げますと、主なものといたしまして北条中央公園、城山公園内の梅園及び樹木病虫害防除を委託したものでございます。北条中央公園につきましては、園内見回り週1回、園内清掃年12回、除草年2回、芝刈り年3回、剪定年1回、病虫害防除年2回等でございます。次に、梅園でございますが、剪定、成木150本について年3回、幼木220本につきまして年2回、施肥年2回、病虫害防除年3回等でございます。樹木病虫害防除につきましては、城山公園のうち面積2万6,800平方メートルについて年2回実施しているところでございます。また、委託の効果につきましては、外部から専門的な知識と技術が導入できること及び作業効率を高めることができるなど適切な維持管理ができるということでございます。

次に、104ページ、下水路工事についてでございますが、下水路工事の不用額についてでございますが、三軒町下水路改良工事及び川名地区排水路改良工事の入札執行残でございます。

次に、北条小学校の改修工事及び小中学校、体協の委託補助金については教育長から御答弁申し上げます。

次に、国民健康保険特別会計についての御質問でございますが、まず診療報酬明細書の点検でございますが、被保険者の医療に対する給付の適正化を図るため行うもので、その内容といたしましては、被保険者の資格に関するもの及び初診料、投薬料、処置料等の点検を行いました結果、請求誤りなどで2,634枚、2,279万3,760円の返還を求めました。

次に、医療費通知の内容と評価についてでございますが、受診月日、受診者名、入院、通院の別及び日数、医療費の額等についての通知を2回実施し、

被保険者の健康と国保制度に対する意識の高揚に努めました。経費といたしましては、2回分の郵便料として44万 7,640円でございます。なお、通知回数をふやすことにつきましては、国保連合会安房支部におきまして検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎副議長（石井 謀君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えいたします。

御質問の第1点の北条小学校の校舎等改修工事の内容と今後の予定でございますが、昭和63年度には高学年棟の屋根の改修と防水工事、外壁の補修と塗装工事、照明器具の設置工事を 6,170万円で契約どおり終了いたしました。次に、平成元年度分といたしましては、7月、8月に高学年棟の窓枠改修、低学年棟屋根と外壁の改修、屋内運動場 ― いわゆる体育館でございますが、屋内運動場の屋根、外壁、窓枠の改修を行いまして、既に終了いたしております。来年度 ― 平成2年度分といたしましては、高学年棟の窓枠改修、渡り廊下の改修、低学年棟の窓枠改修を、最終の平成3年度分といたしましては、高学年棟及び低学年棟の教室内部の改修を予定いたしております。

なお、第2点目の御質問でございますが、北条小学校を建てかえる予定はあるのかというような御質問でございますけれど、現在のところ北条小学校の改築計画はございません。北条小学校改修につきましての質問の答弁でございます。

次は、127ページの小中体連並びに体育協会委託の補助金等についての御質問でございます。昨年度の千葉県中学校総合体育大会への出場種目は何かというような御質問でございますが、陸上競技、軟式野球、軟式庭球、水泳、体操、サッカー、柔道、剣道、相撲、バスケットボール、ソフトボール、バレーボール、卓球の13種目でございます。主な成績といたしましては、卓球で二中が男子団体で優勝 ― このチームは全国大会に出場いたしまして、全国の第2位でございました。女子団体で準優勝、また男子個人戦ダブルスで優勝と準優勝、剣道男子団対戦で房南中が5位、女子個人戦で一中生徒が3

位、陸上競技、男子棒高跳びで三中生徒が5位、女子砲丸投げで二中生徒が6位、バレーボール、女子一中、ソフトボール、女子三中がともにベスト8に進出したしております。

市からの委託料 570万円の内訳でございますが、体育振興強化費 216万 5,300円、県総合体育大会派遣費 337万 9,070円、事務局費22万 9,863円になっております。そのうち小学校の体育振興強化費は52万円で約24%になっており、年度当初に計画された館山市小中体連の主催する競技大会への派遣費はこの中に含まれております。

次に、館山市体育協会に關しての御質問でございますが、昨年度の県民体育大会についてでございますが、陸上、水泳、軟式野球等17種目に出場し、男女総合成績は10.5点で参加団体32団体中28位でございました。主な成績といたしましては、軟式野球が3位、ヨット4位、ゴルフ12位、水泳男子30歳以上50メートル平泳ぎ1位、男子40歳以上50メートルバタフライ3位、男子40歳以上 200メートルリレーで3位、また陸上競技、少年男子で 100メートル4位、走り高跳び4位、400メートルリレー3位等でございます。

指導者の育成、資質の向上でございますが、市より体育協会に対して 487万 5,000円の補助金を支出いたしてありまして、体育協会として各部に育成、選手強化を目的に普及費等を支出いたしておりますが、県民体育大会の成績を見ますと残念ながら成果がいま一つ上がっておりません。今後競技力の向上のためにもできるだけ支援をいたしたいと、このように考えているわけでございます。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 21番議員辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） 御答弁ありがとうございます。決算委員会もございますので、再質問につきましては終わりたいと思います。

◎副議長（石井 謀君） 次、11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 認定議案の第1号昭和63年度の一般会計の決算及び認定の第6号63年度の水道事業特別会計、この二つの会計についてお尋ね

をいたします。

今全国でも9月の市議会がそれぞれ行われておりますけれども、札幌の市議会では継続審議となっております消費税転嫁の条例案が否決されたと報道がされておりましたけれども、一昨日は横浜市議会では細郷市長は消費税転嫁の31条例案をすべて撤回する旨を議長に申し入れたと報道されました。行政一般質問で、半澤市長は消費税転嫁の3条例案につきましてあくまでも撤回はしない旨の姿勢を示されましたけれども、果たしてくみ取り料金、水道料金、国民宿舎料金などの消費税転嫁の議案について、これまで事実上6カ月引き延ばしがされてきたわけでありまして、それらの議案の緊急性が一体あるのかどうか、こうした点からこの83年度決算の数字を踏まえて、現在時点でもその緊急性があるのかどうかという点に絞りながら質疑をしていきたいと思うわけでありまして。

なお、消費税は認められないけれども、値上げなら構わない旨の発言が一般質問の中でされましたけれども、私の立場はこうした誤解を与えるようなものであってはならないというふうに思います。消費税も当然それを理由とした値上げも認められるものではないことを特に申し添えておきたいと思っております。

さて、81ページであります。し尿処理費ということで、当初予算1億 1,160万円、これが補正予算ということで 1,964万 1,000円の補正がされ、予算現額としては 9,195万 9,000円、結局決算の支出済額としてはこのし尿処理費は 8,871万 2,979円、不用額 324万 6,021円を出したわけでありまして。3月の議会で補正をしたわけでありましたが、さらに決算の数字は不用額を出すということでもありますから、し尿処理のこの処理費に対しまして、し尿の手数料ということでこの原価相当分については料金をもらうということになっているわけでありまして。このし尿手数料は、決算の数字によりましてキロ当たり 4,000円もらっているわけでありまして、実際にこの 4,000円のし尿手数料に対しまして今度のこの処理コストは一体幾らになるのか。3月の議会では 3,473円だと、こういう説明がされておったわけでありまして、これよりもこの決算の数字ではさらに安くなっているのではないかと思います。

ので、このキロ当たりのコストについてどのようにこの数字をつかまえておられるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、24ページ見ていただきたいと思いますが、衛生手数料ということで、清掃手数料の中でし尿処理手数料 — 先ほどキロ当たり 4,000円ということでお話をいたしましたけれども、これの昨年度のトータルが1億 973万 1,320円、こういふことで収入がされているわけであります。し尿処理費が先ほどの数字 — 8,871万 2,979円に比べますと 2,000万円以上多くなっているわけであります。もちろんこの人件費の問題をどういふふうに考えるかなどといういふ議論は当然あるわけですが、これまでの経緯からすればいわばこの 2,000万円以上の収益を上げているというふうに考えていいと思うのであります。本年度におきましてこうした基調にあることは当然のことと思います。一方、館山市環境保全公社の経営は、元年度予算でも単年度で 1,700万円の赤字が見込まれております。年度末に至りますと繰り越し損を含めまして 2,200万円の欠損が出るだろう、このような予算であります。そこで、保全公社に対しまして、し尿処理手数料を廃棄物の処理及び清掃に関する条例に基づきまして、この規定に基づいて減免を実施し、保全公社の経営の改善が必要ではないかと思うのでありますが、この点についていかにお考えでありますか。

次に、し尿処理費が大幅に節減された、当初の見込みよりも非常に少なく済んだこの理由は、3月議会での御説明によりますと、脱水した汚泥を焼却せずに特殊肥料として農地還元したために汚泥焼却費や電気使用料が節減された、これが主な理由でございました。これまでの論議では、節減された分を保全公社の経営改善に考えてはどうかと提言をしてきたわけですが、しかしながらこのこと自身は一過性のものに終わる可能性もあると、今後の推移を見てこれが定着するものであるかどうか、この辺の見きわめをしなければこの財源を将来にわたってどうするかということについては言えないんだということが市の御説明でありました。そこでお尋ねをしたいわけですが、その時点から既に6カ月が経過をしておるわけであります。この農地への還元利用についてはその後どのようになっておりますか、長期的に活

用していく見通しは立ったのでありましようか、また少なくとも今年度中は農家の方にこうした農地還元ということで利用をしてもらえる見通しに立っているというふうに考えていいものでしょうか、この辺についての御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、し尿収集料金の消費税分の値上げが提案されているわけですが、この値上げで市民が消費税として負担する額は年間で約 700万円でありましたけれども、実際に納付される消費税は約 200万円、簡易課税制度の活用によりまして差額 500万円はいわば横取りすることができる、このようになっておるわけで、これに対して市長はできのよくない法律だと言われたわけであります。消費税だといって負担を求めながら、実際はそれで保全公社の赤字の穴埋めに使うというのは、これはどう見ましても市民をだますことでもあります。市としてやってはならないことだと思うのでありますが、この点についていかがお考えでありますか。

次に、し尿収集料金の転嫁につきまして、県内28市では転嫁をしていないと、このような市も大変多い、転嫁をしている市はむしろ少ないのではないかと思うわけであります。こうしたことも踏まえまして、県内28市のこの消費税の収集料金に対する転嫁の状況はどのようになっておるのか御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、認定の第6号 水道事業会計決算についてお尋ねをいたします。水道事業会計決算書の1ページをお開きいただきたいと思います。既に4月1日から消費税は法として執行されました。消費税の納税義務は既に生じております。問題は、消費税相当分として3%の値上げということで、この分を市民に転嫁することの緊急性があるのかどうかというこの点であろうかと思えます。63年度の決算では水道事業の収益6億 3,017万 4,139円、これに対して水道事業の費用として5億 9,098万 7,748円、このような数字が示されているわけであります。差し引きで 3,918万 7,000円、この黒字が生じたわけであります。62年度の決算では 4,276万円の黒字でございました。さらに、61年度の決算を見ますと 2,382万 9,000円の黒字でございました。この3年間振り返ってみますと、毎年大変によい決算をしているのがこの水道事業で

ございます。消費税3%分、これが課税をされますと、約1,900万円、この負担が市民にかぶせられることになるわけでありますが、この値上げをあえてしなくてもこの決算の数字から判断いたしますと十分に吸収し得るのではないかと思いますのでありますが、この点についていかがお考えでありましょうか。

そこで、今年度の具体的な状況についてお尋ねをしたいと思うのであります。この3年間黒字決算を続けてきたわけでありますが、この好調な収益の状況を見ますと、毎年2乃至3%給水量が伸びている、これが給水収益をよくしている要因となっているわけであります。そこで、既に過ぎました平成元年度のこの4月から5月、また6月から7月—8月から9月についてはまだ集計もされておられませんでしょうが、この4カ月間の給水実績は対前年度で比べましてどのようになっておりますか、それぞれどの程度伸びているのでありましょうか、御説明をいただきたいと思ひます。

次に、水道事業にとって大変大きなポイントになるのは水事情であります。ことしは大変にこれまでのところよく雨が降りまして、きのうもかなりの降雨でございました。めったに満杯にならないと言われていたあの作名ダムも何回か越流をしたというふうに聞いているわけであります。このダムの水事情につきましても、恐らく近年になく大変に順調な状況がこの元年度の状況ではないでしょうか。こうした事情は水道事業の費用の節減に相当つながる要因を持っているものと思ひます。そこで、館山市営水道のいわば中心になっております作名ダムの状況について、これまでの年との対比で現在の状況をどのように考えておられるのか御説明をいただきたいと思うのであります。

以上、2点にわたりましてお尋ねを申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（石井 謀君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします、

まず、し尿処理費についてでございますが、第1点目の昭和63年度のし尿処理コストについてでございますが、人件費を含む1キロリットル当たりの

コストは 4,749円であり、人件費を除いたコストは1キロリットル当たり 3,222円でございます。

次に、2点目の処理手数料の減免を行い、財団法人館山市環境保全公社の経営の合理化を図る考えはないかという御質問でございますが、この点については今後検討を要する課題だと考えております。

第3点目の脱水汚泥の今後の農地還元の見通しについてでございますが、現在までのところ一部農家の方々にその利用方法についてテストしてもらっている現状でございます。継続利用の効果については今後の結果をまたなければならぬ状況でございますので、いましばらく様子を見たいと考えております。

お答えが逆になりますけども、第4点目の収集料金への消費税転嫁の他市の状況でございますが、転嫁済み2市、許可業者の転嫁了承済み5市、また本年10月1日転嫁予定2市、次年度転嫁予定1市、検討中が10市となっております。また、転嫁しない市は5市、このほか市民に転嫁しないが委託料に含む市が2市となっております。

次に、簡易課税制度による差額の使途についてでございますが、売り上げにかかわる消費税分から仕入れにかかわる消費税分または消費税額を差し引くと御指摘のとおり差額が生じますが、公社経理は企業会計を準用しており、この差額分も清掃事業費用として経常収支において処理をいたしたいと考えております。いずれにいたしましても、次の国会におきまして廃止あるいは見直しについての論議が行われることになっておりますので、その見直しの過程の中で結果を見たいと、またこの簡易課税制度について見直しが行われることを期待をいたします。

次に、水道会計についてでございますが、昭和63年度決算の収益的収支では 3,918万余円の純利益を生じましたが、資本的収支では2億 756万余円の不足が生じており、両収支を合わせますと1億 6,837万余円の不足となっております。消費税の転嫁につきましては、既に消費税法が4月1日から適用され、県水道局を初め県全体で75.4%、安房郡では当市と三芳水道企業団を除くすべての事業体が転嫁をいたしております。したがって、各経費に

消費税の影響があること、現実に納税義務が生じていることなどから、公営企業の健全な運営を確保するためにも転嫁することが必要であると考えております。なお、今後とも公営企業経営の基本原則を踏まえ、経営の合理化等経済性の発揮に努めてまいりたいと考えております。

次に、本年の4月から7月までの有収水量は122万5,189立方メートル、対前年比では3.9%の増加となっております。

また、作名ダムの有効貯水量は9月19日現在で48万409立方メートル、有効貯水率81.4%でございます。

答弁終わります。

◎副議長（石井 謀君） 11番神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 決算の数字でし尿処理のコストは3,222円ということで、さらにまた3月のときよりも安くなっておると。3,222円という中で4,000円の処理手数料をもらっておるということでありますから、人件費を含めると4,000円超えるというんだけど、この人件費については当然地方交付税の中で処置されるわけでありますから、ここの中で住民の負担ということで考えるのは私は妥当ではないというふうに思いますので、その議論はこれまでもしてきたわけで、ここでは今までの経緯からしましてこの3,222円というこの人件費を除いたコストということで話を進めたいと思うんですが、館山市環境保全公社が非常に経営が苦しい状況になって、決算書でもそういうふうに読めますし、また予算書の中でも今年度は大変な経営状況になると。これは当然保全公社が集めてきたし尿を処理場に持って行って4,000円キロ当たり払っているわけですから、しかし実際には3,222円で実際の処理コスト等は済んでいると、したがってその分についてはこれは減免をしてあげて、そして保全公社の経営の改善を図ると、費用の軽減を図る、これは極めて当然のことだろうと思うんです。今後それについて検討をしていくというようなことでしたが、この具体的な検討というところで、いろんなやり方等考えられるんですけども、これは減免ということで考えてよろしいですかということです。

そして、今年度では現実的に1,700万円の赤字が見込まれると、去年も1

.000万の赤字が見込まれるとあって、やってみたら実際には黒字だったというのは保全公社で、雨がよく降ると収集量がふえちゃって経営が改善されちゃったというような話もあるわけで、当初予算では 1,700万ぐらいの赤字を見込んでいるようでありますけれども、今年度決算してみないと最終的な数字はわかりませんけれども、しかしそれなりの負担が出てくることは当然だろうと思うんです。そういうことから、この経営の改善についてはどの程度のことをどのように考えられておるのか、少しお話がいただけたらと思います。

この保全公社の経営の改善については、簡易課税制度が導入されると約 500万円ぐらいこの消費税のアップによって事実上経営改善に使ってしまうと、使えちゃうという状況があるわけです。具体的にどの程度考えていくんですかと。この消費税分の導入をしなかったら 500万円ぐらいの減免相当額を見てあげればこの消費税導入しなくても、十分にこの消費税による値上げを導入しなくても年間でこの分については見ていけるというふうに思うんです。その辺についてはどういうふうに考えておりますか。

それと、農地の還元についてですが、確かに今後の結果を見て、いましばらく時間が欲しいということでもありますから、それはそういう面もあるかと思いますが、そこで、長期にわたってという点ではわかりますけれども、少なくとも今年度どうなんですかと。というのは、少なくともこの消費税の問題というのはことしの12月に総選挙であるいは結論になるんじゃないかというふうな話にもわかに上がってきておりますから、ですから少なくとも今年度この見通しがあるんだとすれば、これは今年度の財源として十分考えられますし、それ以降 — 選挙以降のことについてはどうこうというのはその後の話で、国民の判断をまった上で議論をしていくのが当然でありますから、そういうことで今年度については一応試行ということをやってもらえるというふうに考えていいのかどうか。

それと、県内の他市の状況では転嫁をしていないというのが、過半数はしていない、今のお話ですと、いうことで、していない市の方が多いということとでございますから、ぜひこれは大事な点として押さえておきたいと思いま

す。

次に、水道の問題であります。先ほどのお話ですと 3.9%この4月、5月、6月、7月では給水実績が伸びていると、こういうようなお話でございました。この 3.9%の伸びというのは近年になく伸びの率としては多いわけです。この調子で給水のあれが伸びましたら、相当この元年度も収益が上がっちゃう形になってくるというふうに思いますけども、そうはうまくいかないで、夏は伸びはかえって少なくなるとかいうこともあろうかと思います。しかしながら、4月から7月の状況はかなりいいということでもありますから、大変にこれについては期待の持てる数字じゃないかなと、とりあえずはそう思うんであります。

この水の問題は、まだこれから大渇水でも起こればこれはまた事情が大いに変わります。一番大きな問題は水事情がどうかと、よく雨が降ってダムにいつも水が満杯だということであれば給水が伸びても全然心配もないし、そしてまた給水にかかわる費用も非常に少なくて済むと、それが経営の改善にとっては、経営状況の推移を見る場合に非常にプラスの要因としてその辺の判断ができるんじゃないかなと思うわけです。

それで、現在81%というような作名ダムの状況、またきのう降りましたからまたふえたんじゃないかなと思うんですけれども、こういう現在の状況というのはこれまでになく非常にいい状況なんじゃないんですか。少なくともここ3年、過去3年ずっと黒字を続けてきたその年よりも現在の水事情というのは大変いい事情だというふうに私は思うんですが、その辺いかがでしょうか、お聞かせいただきたいと思います。

◎副議長（石井 謀君） 小幡民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 館山市環境保全公社に対するし尿処理投入手数料の減免についてということでございますが、これは減免について今後検討する課題であると、減免ということでもって検討する課題だというふうに考えているわけでございます。今後というこの時期でございますが、本年度減免すれば消費税がという今お話があったわけでございますが、本年度ということではなく、近々いずれにしても累積で 2,000万からの赤字が出る見込み

でございますので、し尿処理手数料の改定を検討しなければならないと、そのときにそのことは検討の中へ入れたいと、このように考えているわけでございます。

それから、脱水汚泥の農地還元でございますが、本年度は63年度同様何とか全量現在の時点では還元できる見通しでございます。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 作名ダムの水位も近年にない水状況じゃなかろうかというような御質問でございますが、大概夏を過ぎますと30%乃至40%というのが、通常夏給水が終わりますとそのくらいの水があったわけでございます。これから通常ですとその30%乃至40%が秋の長雨によりましてまた復活をしてくるというような繰り返しであったわけでございます。非常に今までダムをつくって初めてのことでございます。81.4%はございます。この大きな理由といたしましては、現在までトータルしますと 1,908ミリの雨が1月からございます。そういったことで、これからの水需要は10月あるいは2月ごろまでのそういったものが心配になるわけございまして、そういった経営の中で心配されることでございますので、下からのくみ上げは怠らなく努力したい、このように思っております。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 11番神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） し尿の関係でありますけれども、減免については今後という、今後というのは今年度になるのか来年度になるのか、今後ということですからいろんな含みがあるし、消費税の転嫁が否決されたらどうしようかということも考えているのか、いろいろ考えがあるのかなと思いますけれども、それはそういう含みの中で今の御答弁については聞いておきたいと思います。

大事な点は、一応今年度についても農地還元についてはやってもらえるということですから、だとすると閉めてみなきゃ最終的にわかりませんけれども、今年度 3,222円で実際にはコストが済んだと、その大きな要因がそこに

あったわけですから、これに近い数字、あるいはこれよりもっと安く済むのか、あるいはちょっと若干高くなるのかわかりませんが、結果的にはやはりこれに近い数字で今年度は推移するということだろうと思うんです。だといたしますと、やはり非常にし尿の処理費に対して手数料による収入の差、これはやはり今年度並みのものがそれ相当に見られるというふうなことしという点でいえば言えるのではないかと思うんです。そういたしますと、今後ということでありますから、それをざっくりばらんな話今年度 2,000万円ぐらいの差引きで望めますよと、今のお話ですと、こういうふうに今のことを理解をして、これをどういうふうに生かしていくかというのは今後検討していくということで、来年か再来年になっちゃうんだかわかりませんが、今年度にするのかどうかかわかりませんが、とりあえずそういう差引きで 2,000万円ぐらいの収益といいますか、こういうものが出るという見込みに立っていいですか、その辺。

それと、水のことでありますが、81.4%というこのダムの状況というのは近年にない大変な状況で、非常に水事情としてはいい状況だということで、今のお話ですと来年の2月ごろまでこれは何とかなるといふような意味で、例年11月ごろから渇水の時期あります。その時期は何とかクリア、それがかかり長期にわたるという場合は――異常気象だから絶対ないとは言えませんけれども、これまでの常識的な範囲内では秋から冬にかけての渇水期は一応乗り切れるんじゃないかなと、この今の数字から見ますと。今後も例年のような雨の状況が当然続くとすれば、当然下からのくみ上げといっても――満杯になればもちろん必要ありませんし、非常にそういう点では経営の状況としてはいい状況に進んでいるんじゃないかなということで、こういう点から経費の節減という点でどのような、これは金の換算でいってなかなかな一概に言えない面がたくさんありますけれども、ざっくりばらんところどのくらいこういう点は経費の面では、当初予算で見込んでいるのに対して状況はこれまでのところ好転しているというふうに踏んでおりますか。これは雨を相手の話だから、極めて難しい質問にはなりますけれども、これまでのところの腹づもりというか、その辺のお考えで結構ですから、お聞かせいただきたい

いと思います。

◎副議長（石井 謀君） 小幡民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 御承知のように衛生センター稼働後8年目を迎えているわけございまして、これから維持補修費がいろいろかかってくるわけございまして。ですから、その処理コストと投入料との差が2,000万が今後同じような形で続いていくということは考えられないと思うわけございまして。

以上でございまして。

◎副議長（石井 謀君） 鈴木水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 経営面に水の需要がどのように影響しているかというようなことではございますが、現在数字的には出してはございませんが、くみ上げが少なくなれば動力費というものが若干なりとも少なくなるというようなことが言えるかと思っております。

以上でございまして。

◎副議長（石井 謀君） 以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございますか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎副議長（石井 謀君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております認定第1号乃至第7号昭和63年度各会計決算につきまして、10人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（石井 謀君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りをいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第5条第1項の規定により、

5番議員 岩村 勝弘君

7番議員 生稲 隆君

8 番議員 鈴木 勝美君

10 番議員 鈴木 忠夫君

11 番議員 神田 守隆君

13 番議員 山中金治郎君

20 番議員 福原 勤君

22 番議員 黒川 平治君

26 番議員 近藤 好雄君

28 番議員 飯田 義男君

以上10人を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました10人の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承を願います。

延 会 午前11時47分

◎副議長(石井 謀君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、9月21日から9月28日まで委員会審査のため休会、次会は9月29日午前10時開会といたします。この議事は、議案第50号乃至議案第58号、認定第1号乃至認定第7号にかかわる委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議等といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは9月29日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 認定第1号乃至認定第7号

1 決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任